

育苗センターでは、本年の育苗事業を次の通り稼働いたします。  
 昨年同様、農作業の軽減を図るため、野菜育苗事業を実施いたします。育苗予定は次の通り行いたいと思いますので関係農家の方で育苗センターでの育苗ご希望の方は、各支所、又は販売課までお申し込み下さい。

### 1. ブロッコリー成型苗【1枚1,050円】(苗を持ち帰り後、2日程度外気に慣らして、定植して下さい。)

品種	ピクセル	ピクセル	しき緑	しき緑	改良緑炎	メガドーム	エンデバー	みよ緑3号
定植日	8月25日	9月1日	9月8日	9月15日	9月22日	9月29日	10月4日	10月13日
品種	K-6 401	SK-084	SK-084					
定植日	8月25日	9月1日	9月8日					
品種	みよ緑3号	盛緑180	ピクセル(トンネル)	ピクセル(トンネル)	ピクセル	ピクセル	ピクセル	
定植日	10月19日	10月20日	1月12日	1月19日	2月14日	2月21日	2月28日	
品種	晩緑99W	晩緑100	SK-084(トンネル)	SK-084(トンネル)	SK-084	SK-084		
定植日	10月19日	10月20日	1月12日	1月19日	2月14日	2月21日		

### 2. (参考標準) 10a当たり40枚程度

### 3. レタス・サニーレタス成型苗【1枚750円】(苗を持ち帰り後、2日程度外気に慣らして、定植して下さい。)

品種	マイヤー	スターレイ	アスレ				シスコ				
定植日	9月21日	9月28日	9月21日	9月28日	10月3日	10月5日	10月7日	10月12日	10月19日	10月26日	10月28日
品種	シスコ		シスコ		シスコ			ウイザード			
定植日	11月9日	11月16日	12月1日	12月8日	12月15日	1月5日	1月19日	1月26日	2月9日	2月16日	3月1日
品種	シスコF										
定植日	10月21日	11月4日	11月16日								

サニーレタス苗									
9月21日	9月28日	10月3日	10月7日	10月12日	10月19日	10月26日	11月4日	11月16日	11月25日
サニーレタス苗									
12月8日	12月15日	12月20日	1月5日	1月19日	1月26日	2月9日	2月22日		

### 4. (参考標準) 10a当たり37枚程度

5. 苗についての問い合わせ先 農協販売課 TEL: 35-2027 育苗センター TEL: 35-7311

**\*トマト黄化葉巻病に注意を  
(阿波町内にも発生)**

トマト黄化葉巻病はトマト黄化葉巻ウイルスの感染によって起こるウイルス病で、このウイルスはタバココナジラミのみが媒介する。その他の昆虫が媒介することはなく、経卵伝染、種子伝染、汁液伝染(人の手、ハサミ伝染はしない)、土壌伝染はしない。

#### 1. 病徴と被害

新葉が葉の縁から黄化しながら葉巻症状となり、後に葉脈間が黄化し縮れた状態になる。さらに症状が進行すると、上位葉が小さくなり、関節が短くなり株全体が萎縮する。発病後は開花してもトマトでは果実が結実せず収穫できない。ミニトマトでは結実はするが収穫量が減少する。

#### 2. 感染防止対策

トマト黄化葉巻ウイルスに感染した植物をタバココナジラミが吸汁することによりウイルスを獲得し、新たに健全なトマトを吸汁した場合に感染し、発病する。従って、感染したトマトを除去すること、タバココナジラミを防除することが対策となる。

#### 3. 防除薬剤

トマト	ベストガード粒剤	1〜2g	定植時	1回
	ダントツ粒剤・スタークル粒剤	1〜2g	定植時	1回
	モスピラン水溶剤	2000倍	前日/2回	1回
	ベストガード水溶剤	2000倍	前日/2回	1回
	スタークル顆粒水和剤	3000倍	前日/2回	1回
	コロマイト乳剤	1500倍	前日/2回	1回

ミニトマト

ベストガード粒剤	1〜2g	定植時	1回
ダントツ粒剤・スタークル粒剤	1〜2g	定植時	1回
モスピラン水溶剤	2000倍	前日/2回	1回
ベストガード水溶剤	1000〜2000倍	前日/3回	
スタークル顆粒水和剤	3000倍	前日/2回	
コロマイト乳剤	1500倍	前日/2回	

**\*暖房機器の重油低コスト対策について**

1. 暖房機器の点検整備の徹底

○暖房器具のバーナノズルの燃焼カス等による汚れは、燃料と空気の正常な混合を阻害し、完全燃焼を妨げたり燃焼効率の低下を招くことになるので、燃焼室内の掃除やノズルの交換等を行う。

2. 温室内の環境改善（放熱抑制）

○ハウス周辺に防風ネットを設置する。  
○周壁部や谷部の二重被覆資材の隙間の点検・補修をする。

3. 適切な温湿度管理

○循環扇の設置及び活用による温度の均一化に努める。  
○温度センサーを適切な位置に設置する。  
○作物及び品種別の温度特性を踏まえた上で、生育ステージに合わせた最適暖房温度の設定等の温度管理に努める。

ただし、省エネばかりに気を取られていると、日照不足・高温障害や炭酸ガス不足を招くことがあるので、換気には十分注意する。

**\*ミニトマト管理について**

1. 適正草勢

○適正草勢 最上位の花房のついている茎の太さが、チョークより太い程度。  
↓茎の太さは一定の太さがよい。  
○樹体管理は遅れないように。いったん草勢が落ち込むと元に戻らない。  
↓草勢を落とさないのが収量を上げるポイント。

2. かん水、追肥

○草勢やほ場条件、土壌水分状態を勘案してかん水する。  
かん水が多い：葉が大きく、軟弱となる。  
（窒素肥料の吸収が多くなる↓病気が発生しやすい。）  
かん水が少ない：生育が遅れる。  
（石灰の吸収が少なくなり、尻ぐされ等が増える。）  
※一度に多量のかん水を行うと裂果が多くなる。

○追肥は草勢により異なるが、第1果房の収穫期頃から始める。  
（1回当たりの施用量は、10a当たりチツソ成分で1〜2kg程度とする。）

※草勢が弱い場合は、メリット青4000倍液を葉面散布し、樹勢の回復に努める。

3. 摘芽、摘果、摘葉

○摘芽、摘果、摘葉は、晴天時に行う。  
○5段果房開花期以降は、展開葉16〜17枚程度を残し、順次下葉からこまめに摘葉し、通風、透光をよくする。

4. ホルモン処理

○ホルモン剤は1花房中に4〜5花開花したときに処理し、1花房当たり3〜4回処理する。処理間隔の目安は、9月3〜4日、10月と春先7日、11月以降7〜10日。ホルモン剤は生長点や新葉にかからないように注意する。

○ホルモン剤の濃度は低温期には濃く、高温時には薄くする。  
（12月中旬〜2月下旬トマトトーン100倍液程度。）

※マルハナバチの利用（使用には飼養許可が必要）  
4mm目以下の防虫ネットを設置し、第1花房が咲きそろうころに放飼する。正常な活動温度は5〜25℃、寿命は2ヶ月程度。

5. 裂果対策

○適正な土壌水分管理に努める。  
○急激な土壌水分の変化は裂果を招く。  
○換気に留意し、ハウス内の湿度を低く保つ。  
○降雨後の収穫はできるだけさける。  
○ハウス内の湿度は、10℃以下にしない。（露滴が果実に付着し裂果の原因となる）  
○ちぎり遅れは、裂果の原因となるので、適期収穫に努める。

6. 病害虫防除

① 葉かび病

葉かび病菌は、20〜25℃、湿度95%以上の多湿を好む。下葉に現れ、しだいに上葉に広がる。十分な換気を行う。

ベルクート水和剤	6000倍	前日/3回
カリグリーン	800倍	前日/1回
トリフミン水和剤	3000〜5000倍	前日/5回

② 疫病

20℃くらいの低温多湿の条件が続くと発生しやすい。葉や果実に多く発生する。下葉から発生し、しだいに上葉に広がる。

ペンコゼブフロアブル	10000〜20000倍	前日/4回
リドミル銅水和剤	4000〜6000倍	前日/2回
③ マメハモグリバエ		前日/3回

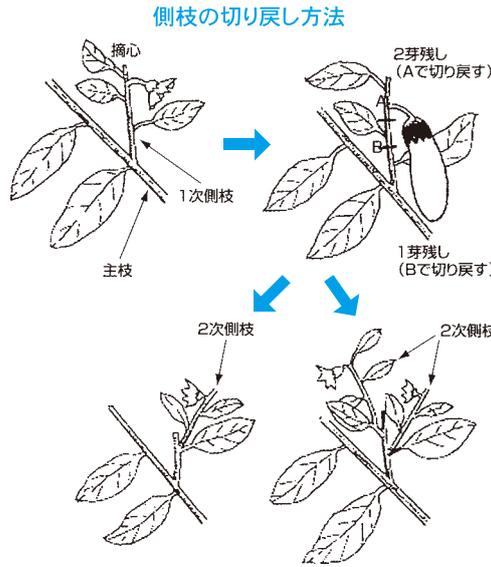
施設栽培では、1年中発生を繰り返す。1世代の所要日数は15℃で約50日。成虫は、体長2mm程度のハエ。

アフーム乳剤	20000倍	前日/5回
ダントツ水溶剤	20000倍	前日/3回
プレバソフフロアブル	20000倍	前日/3回

## \*夏秋茄子管理について

### 1. 誘引、整枝

- 側枝の摘芯は、実の上の葉1枚を残して摘芯する。実のすぐ下の芽（下から2つ目）を取り、側枝の果実の収穫後は側枝の葉1枚を残して切り返す。
- 8月下旬までは1側枝1果どり摘芯切り戻し剪定を行う。



### 2. 追肥

- 樹勢低下を起こさせないように定期的に行うようにして、定植後1ヶ月を目途に開始する。生育初期は1回当たりの処理量を控えめにする。
- 苦土欠対策として、硫酸マグネシウムの施用も行う。
- ・畦間（10〜20kg）
- ・灌水チューブ（3〜5kg）
- ・葉面散布（5000倍を3〜5日間隔で3回位）

### 3. 灌水

- マルチ内の乾燥に注意し、畦をまくって湿り具合を確認する。
- 夏の灌水は夕方に行い、畦間に長時間滞水しないようにする。滞水した場合は、速やかに排水口から流す。
- 乾燥と滞水の繰り返しは、根を傷める場合があるので十分注意する。

### 4. 生理障害

- 梅雨明け後は盛夏の干天下で葉面蒸散が激しく、ツヤなし果が発生するので、こまめに水管理をする。（地表面で極端な乾湿差を繰り返さない。）
- ・先端部分のツヤ無し：開花後15〜20日くらいの土壌水分不足。
- ・果実全体のツヤ無し：開花後20日以降、肥大最盛期の土壌水分不足

### 5. 病害虫防除

#### ①ハダニ類・チャノホコリダニ

- 高温乾燥条件が発生を助長するので、梅雨明け前後より、チャノホコリダニにも有効なダニ剤を選定し、葉裏まで十分にかかるように行う。

アフーム乳剤	20000倍	前日/2回
カネマイトフロアブル	10000倍	前日/1回
コテツフロアブル	20000倍	前日/2回
ダニサラバフロアブル	10000倍	前日/2回
ピラニカEW	20000倍	前日/1回

#### ②ミナミキイロアザミウマ

- 発生初期の低密度時から定期防除を開始する。

アグロスリン水和剤	10000倍	前日/5回
スピノエース顆粒水和剤	25000倍	前日/2回
アフーム乳剤	20000倍	前日/2回
ハチハチ乳剤	10000倍	前日/2回

#### ③ヨトウムシ・オオタバコガ

- 老齢幼虫に対する薬剤の防除効果が劣るので、早期防除に努め、卵塊が付着していたり若齢幼虫が集団で食害している葉は、直ちに摘葉して圃場から持ち出して処分する。

コテツフロアブル	20000倍	前日/2回
トルネードフロアブル	20000倍	前日/2回
プレオフロアブル	10000倍	前日/4回

#### ④カスミカメシ

- 生長点付近の葉に不規則な穴が多数あいたり、芯どまり症状になり、被害がひどい場合には生育が著しく阻害されるので発見したら直ちに防除に努める。

#### ⑤うどんこ病

- 気温が25〜28℃、湿度が50〜80%程度の高湿乾燥時に発生が多く、気温の急激な変化によっても発生が見られるので予防に重点をおくようにする。

トリフミン水和剤	30000倍	前日/5回
バンチヨTF顆粒水和剤	20000倍	前日/2回
フルピカフロアブル	20000倍	前日/4回
アフエットフロアブル	20000倍	前日/3回

## \*レタス栽培管理について

### ◎定植後の管理について

- ・定植後15日は、根と外葉を十分育てる。
- ・冬場乾燥すると小玉のまま固くなるので、適宜かん水を行う。
- ・生育適温 結球開始期以前まで 25℃以下
- （外葉12〜15枚で結球が始まる）
- ・球肥大充実期まで 20〜22℃
- ・結球期 20℃以下
- （やや低めの温度管理）

- ※最高気温が25℃以上の高温になると最大軟球、タケノコ球等の変形球が出やすい。

2月頃でも、日中晴天のときにはトンネル内は午前9時過ぎには30℃以上となる。  
したがって天気の良い日には、朝の早い時間からトンネルの南や東側を何力所か大きく開放し、日中

## 2. 換気の基本

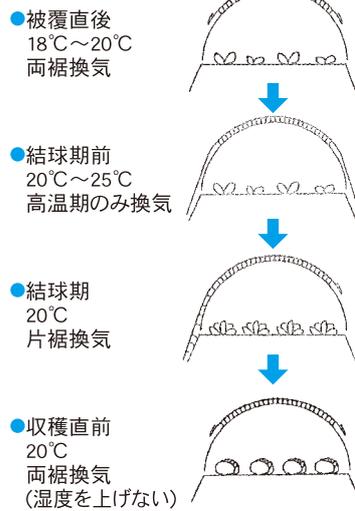
トンネル被覆始めは、平均気温10℃を目安として、それ以上の高温に戻らない12月に入り、一度霜にあつてから行うのが一般的。

## 1. 被ふく開始時期

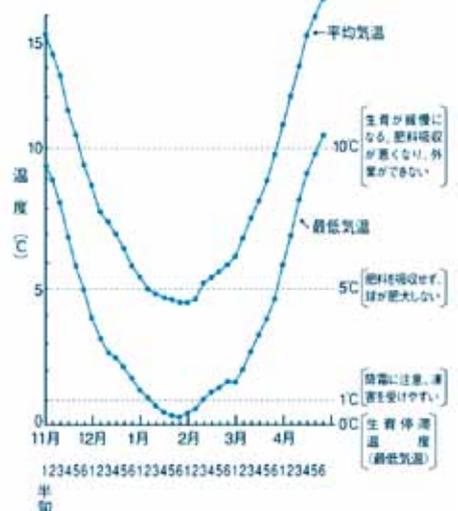
生育適温が15〜25℃と、涼しい環境を好む。

被覆による高温条件で生育を進めることよりも、霜による凍害を防ぎ、低温での生育の遅れや停止を防ぐために行う。

### トンネル管理図



第1図 レタスの生育と温度域  
温度のデータは香川県のもの



- ① 発病地ではイネ科作物と輪作する。
- ② 石灰を十分に施す。
- ③ 排水を良くする。

### ◎ 耕種的防除

発病条件：多雨多湿の時に多い、土壌伝染で病原細菌はレタスの損害部分から侵入して感染し発病する。  
病気の症状：葉や茎の外観は異常がないのに株全体に生氣がなく、葉がしおれ、茎のずい部だけが腐敗、空洞化し、悪臭を発する。

### ◎ 軟腐病

発病条件：冬から春どりのトンネル栽培に発生する。凍霜害による傷み、トンネル内の高温多湿条件が助長する。

- ① マルチ栽培を行って、土壌からの病原菌のはね上がりをできるだけ少なくする。
- ② トンネル栽培はできるだけ換気につとめる。
- ③ 圃場の排水をよくする。
- ④ 連作を避ける。
- ⑤ 収穫後できるだけ被害葉を圃場から搬出する。
- ⑥ 低温期の降雨後の発生が多くなる傾向にあるので防除の徹底を図る。

### ◎ 耕種的防除

病気の症状：葉縁の近くに単黒褐色の不正形の病斑を生じ、次第に拡大してV字形に大きく枯れ込む。外葉及び結球外葉に発生が多く内球に発生することは少ない。

### ◎ 斑点細菌病

発病条件：冬季から早春にかけて発生し、気温の高い時期は少ない。  
雲雨天が続くと急速に拡大する。↓低温多湿条件で発生しやすい？

## ◎ 病害虫防除について

### 3. 病害虫防除について

の適温状態を保つようにする。また、午後には少し早めから閉めて、夜中までの温度をなるべく保つようにする。  
特に、結球開始前7日頃に、数日間の高温にあって「結球異常」が出やすくなるので、「結球開始期の株」に対する被覆は注意が必要。徹底した換気に努めることが大切。

## 1. 主要病害虫の発生時期

病害虫名	11			12			1			2			3			4	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中
灰色かび病 菌核病																	
斑点細菌病 腐敗病 軟腐病																	
すそ枯病																	
アブラムシ ヨトウムシ																	
ナモグリバエ																	

- ① 連作を避ける。
- ② トンネルかけは早めに行い、なるべく雨に直接あてない。
- ③ 排水を図り、高畦にする。
- ④ 発病増加の恐れのある場合は、早めに収穫する。
- ⑤ 結球始期前後に細菌が付着しやすいため、この時

高温時降雨後の発生が多いので防除を徹底する。

### ◎ 腐敗病

発病条件：冬から春どりのトンネル栽培に発生する。凍霜害による傷み、トンネル内の高温多湿条件が助長する。

病気の症状：結球を始める頃から収穫期に、結球外葉の葉縁や凍霜害を受けた部分から褐変し、次第に拡大する。

### ◎ 耕種的防除

① 連作を避ける。  
② トンネルかけは早めに行い、なるべく雨に直接あてない。  
③ 排水を図り、高畦にする。  
④ 発病増加の恐れのある場合は、早めに収穫する。  
⑤ 結球始期前後に細菌が付着しやすいため、この時

④ 外葉に傷をつけたり土を付着させないようにする。

期の防除を徹底する。

#### ④すそ枯病

発病条件：育苗期と結球期に発生が多い。土壌が多湿の時。感染は育苗期に多い。

発病条件：地ぎわの葉柄に褐色の病斑を生じ、次第に拡大して葉全体に広がり地ぎわが腐敗して枯れる。生育初期に発生すると苗立枯となる。

#### ○耕種的防除

①マルチ栽培をする。

②圃場の排水を良くし、高畦にする。

③連作の回避、株元の通風を図る。多窒素型栽培を避ける。

#### ⑤アブラムシ類（モザイク病）

#### ○耕種的防除

寒冷紗被覆、光反射フィルム等を活用して、アブラムシ類の飛来を防止する。

#### ⑥オオタバコガ

（生態）

オオタバコガは、レタスをはじめトマト・なす・ピーマンなど様々な作物を食害する。年間4〜5回発生して、卵は1卵ずつ産み付けるために、ほ場の広範囲に被害が発生する。近年、年内どり作型での被害が目立っています。

#### （被害状況）

幼虫が作物内に潜り込む性質を持っているため、薬剤がかかり難く、さらに中齢期以降の幼虫は薬剤抵抗性が強くなるために、難防除害虫とされています。

#### （防除のポイント）

幼虫が、レタス内に入ってしまいう前に、殺虫剤による防除を行います。

新しい食害痕や虫フンを見つけたら、その周囲に必ず幼虫がいるので、注意深く寄生の有無を調べます。

#### ⑦ハスモンヨトウ

（発生状況等）

ふ化後1週間は群生し、その後分散し、被害が拡大する。

夜行性である。

広食性なので付近の雑草地からも侵入する。

#### （防除のポイント）

幼虫ができるだけ小さいとき（1cm以下）の時に防除する。

葉裏についている黄褐色の卵の固まりをつぶす。性フェロモンを設置して早期発見に努める。

#### ⑧ナモグリバエ

（被害状況）

例年では3月中旬以降に発生する「ハモグリバエ（ナモグリ）」が、暖冬の影響によって発生が目立っている。今までは、下葉に寄生する程度であったが、発生が早くなり、密度が高くなると、商品価値にも影響がでる。

#### （防除のポイント）

ほ場でのナモグリバエの発生は、苗による持ち込みによるので、育苗中の防除と、定植時の粒剤殺虫剤の施用、3月上旬からの発生初期からの農薬防除を行います。

### \*ブロッコリー栽培について

品種、作型を組み合わせる長期連続出荷に努め、病害虫の早期防除、湿害対策を行う。

#### 1. 土づくり

○充実した品質の良い花蕾を収穫するためには、地力のある圃場づくりとバランスのとれた施肥設計が必要である。

（10 a 当たり堆肥3 t、苦土石灰120 kg、リンスター40 kg等を早めに施用する。）

#### 2. 施肥

①基肥は定植10日位前に全面施用する。

（施肥例／10 a 当たり）

- ・アラジン100 kg、または48号を80 kg。
- ・マルチサポート1号60 kg（微量要素）

②追肥は肥切れさせないように、3〜5回に分けて行う。

（施肥例／10 a 当たり）

- ・第1回 定植2週間後 S 8 4 2 40 kg
- ・第2回 定植1ヶ月後 S 8 4 2 40 kg
- ・止め肥 花蕾初期 硫酸 20 kg

#### 3. 定植

①栽植密度

150 cm × 30 cm × 2 条ちどり

10 a 当たり約4500株

#### ②定植方法

降雨前や曇天等、乾燥しにくい日に植え付け根を切らないようにトレイから抜き取り、乾かさないうにする。

#### 4. 肥培管理のポイント

①灌水は花蕾多収の必要条件であるため、常に適温を保つよう適宜畦間灌水を行う。

②年内どりは初期の生育を順調にすすめ、中期以降の肥効はゆっくり効かせる。

③冬どりは基肥主力で初期成育を促し、年内に充実した株をつくる。

### \*各種作業機貸し出しについて

農協では、農作業の省力化をはかるために、各種作業機の貸し出しを行っていますので希望者は指導部へ申し込んで下さい。

10 a 当たりの作業料金

- ナス畦立機 3,000円 オペレーター 無
- レタスマルチャー 3,000円
- レタス（移植機） 3,000円
- ブロッコリー畦立機 3,000円
- ブロッコリー（移植機） 3,000円
- 動力噴霧器 1,000円